

# 愛への道

ボグスワフ・ノヴァク著



# 愛への道

ボグスワフ・ノヴァク著

名古屋・カトリック南山教会  
2009年6月29日（聖ペトロ 聖パウロ使徒）

## 十字架上のキリストへの祈り

主よ 私があなたを愛するのは  
あなたが天国を約束されたからではありません。  
あなたにそむかないのは  
地獄が恐ろしいからではありません。

主よ 私を引きつけるのは  
あなたご自身です。  
私の心を揺り動かすのは  
十字架につけられ、  
侮辱をお受けになったあなたのお姿です。  
あなたの傷ついたお体です。  
あなたの受けられた恥ずかしめと死です。

そうです 主よ。  
あなたの愛が私を揺り動かすのです。  
ですから たとえ天国がなくても  
主よ 私はあなたを愛します。  
たとえ地獄がなくても  
私はあなたを畏れます。

あなたが何もくださらなくても  
私はあなたを愛します。  
望みが何もかなわなくても  
私の愛は変わることはありません。

(聖フランシスコ・ザビエルが唱えた祈り)

## ◆ 導入

☞ 「わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです。神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。」 1 コリ 1:22-25

- 人生において、一番大切なのは愛であると思っている人がいれば、愛について何も考えていない人もいます。けれども、色々な人の生き方を見れば分かるように、愛の大切さを意識しても、しなくても、例外なくすべての人は愛に飢え渴き、絶えず愛を探求していますし、愛を最も大きな幸福として体験しているのです。
- しかし、真の愛と出会っても、どれぐらいの人が、この愛に忠実に生き、最後までこの愛に留まり、この愛を完成させるのでしょうか。
- およそ 2000 年前に生まれたイエス・キリストは、私たちが心から求めている愛を完全に生きた人であり、私たちに愛への道を示すこと、愛に生きるために必要な力を与えることのできる人なのです。それは非常に不思議なことですが、この道を知り、この力を受けるためには、私たちが十字架に付けられたキリストを見つめる必要があります。
- この小冊子の中で、イエスの死の意味を説きながら、イエスが示してくださった愛への道を短く紹介したいと思います。

# 1. イエスの使命

📖 「わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。」ヨハ 18:37

📖 「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」ヨハ 13:34

📖 「御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。」ヘブ 1:3

📖 「わたしたちは、わたしたちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。」1ヨハ 4:16

- 神の子（御子）であるイエス・キリストがこの世に来られたのは、真理について証するためでした。それは、抽象的な真理ではなく、私たちが人間らしく生きるために必要な真理、神と人間についての真理なのです。
- イエスは、ご自分の言葉と行いによって、真の愛がどんなものであるかということ、また、愛こそが人間の本質であると教えてくださったと同時に、神が愛そのものであり、私たちが心の奥底で求めている愛の源であると知らせてくださいました。



## 2. 神が人間から、御独り子に対して求めた態度

📖 「わたしたちにとっては、唯一の神、父である神がおられ、万物はこの神から出、わたしたちはこの神へ帰って行くのです。」 1 コリ 8:6

📖 「ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、おまえにつかわされた人たちを石で打ち殺す者よ。ちょうど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。」 マタ 23:37

📖 「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。」 ヘブ 1:1-2

📖 「まだ一人、愛する息子がいた。『わたしの息子なら敬ってくれるだろう』と言って、最後に息子を送った。」 マコ 12:6

📖 「わたしは御名を彼らに知らせました。また、これからも知らせます。わたしに対するあなたの愛が彼らの内にあり、わたしも彼らの内にいるようになるためです。」 ヨハ 17:26

📖 「わたしを受け入れる者は、わたしをつかわされたかたを、受け入れるのである。」 ヨハ 13:20

- 人間は、愛によって神の命にあずかるために創造されています。言い換えれば、愛によって神と結ばれることこそ、創造主である神が定めた人生の目的であり、人間にとって最高の幸福なのです。イエスは、この現実、つまり愛における神と人類の一致を「神の国」と呼びました。
- すべての人々が人生の目標に到達するために、神は絶えずご自分の業（働き）と言葉によって、ご自身を現し、一人ひとり愛の交わりへと招き、導いておられます。イエスによって、神は最も力強く働き、最も大きな声で語っておられます。
- 昔も、今も、神が求めておられるのは、人々が御独り子を敬い、受け入れることによって、愛をもって神の招きに応えることなのです。

### 3. イエスに対する人間の態度

☞ 「ピラトは三度目に言った。「いったい、どんな悪事を働いたと言うのか。この男には死刑に当たる犯罪は何も見つからなかった。だから、鞭で懲らしめて釈放しよう。」ところが人々は、イエスを十字架につけるようにあくまでも大声で要求し続けた。その声はますます強くなった。そこで、ピラトは彼らの要求をいれる決定を下した。そして、暴動と殺人のかどで投獄されていたバラバを要求どおりに釈放し、イエスの方は彼らに引き渡して、好きなようにさせた。」ルカ 23:22-25

☞ 「わたしたちが語るのは、隠されていた、神秘としての神の知恵であり、神がわたしたちに栄光を与えるために、世界の始まる前から定めておられたものです。 この世の支配者たちはだれ一人、この知恵を理解しませんでした。もし理解していたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。」1コリ 2:7-8

☞ 「言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。」ヨハ 1:10-11

- イエスがいつも良い業を行い、何の悪事も働かなかったにもかかわらず、イスラエルの権力者によって裁かれて死刑の判決が下されました。それは、明らかに正義に反するものでした。この裁判によって人々が、イエスを侮辱し、拒否したのです。それは、神の望みと神の計画に逆らう行為として、大きな罪でした。
- 昔だけではなく、現在も多くの人は、神が苦しみを与えとか、この世にある悪や人間の苦しみに対して無関心であるとか、祈りを聞き入れないなどと言います。このように考えている人々は、そのようなつもりがなくても、実際は、神を裁いています。神に対して有罪判決を下す人、つまり神が自分の不幸の原因であると決め付ける人は、神を憎んで、なるべく神から離れて生きようとしています。結果的に、この人は神を信じて、愛の源である神から自分を切り離すので、神が皆に与えたい愛を拒否するか、受け入れてもそれを生かすことが出来ず、無駄にしてしまいます。

## 4. 十字架に付けられたイエスの行い

- ☞ 「イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われた。それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。」ヨハ 19:26-27
- ☞ 「そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。」ルカ 23:34
- ☞ 「我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」そして、「イエスよ、あなたの御国においてになるときには、わたしを思い出してください」と言った。するとイエスは、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。」ルカ 23:41-43
- ☞ 「イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。」ルカ 23:46
- ☞ 「ののしられてもののしり返さず、苦しめられても人を脅さず、正しくお裁きになる方にお任せになりました。」1ペト 2:23
- 大きな苦しみには人間を墮落させる力、または人間を滅ぼす力があるので、決して望ましいことではありません。しかし、私たちは望ましくない苦しみを、何らかの善のために利用することができます。例えば、人間が体験している苦しみを、自分の成長のために役に立たせることが出来ます。なぜなら、苦しみには人間が普段かぶっている仮面をはぐ力があるので、実際の自分（価値観、期待、欲望、弱点、罪など）をありのまま知る機会になり得ます。また、大きな苦しみは自分の中にある本当の善を表し、自分の愛が本物であると示す機会にもなり得ます。
  - 出会った人を愛して、彼らのためにいつも善を行ったイエスは、非常に大きな苦しみの中にあっても、死を目の前にしても、愛する母だけではなく、イエスを十字架につけたローマの兵士や死刑

に当たる罪を犯した人に対しても思いやりの心をもって、彼らに一番必要な善を行いました。それによって、イエスが、あらゆる状況においても、全く無償で、無条件に、すべての人を限りなく愛していたということ、また、イエスの愛は、悪にも苦しみにも負けない、真の愛であったということが分かります。

- 神に見捨てられているように感じて、イエスが神を信頼し続け、神に自分の命を委ねることができたのは、本当に神を愛していたからです。



## 5. 十字架の力

📖 「そこで、イエスは言われた。「あなたたちは、人の子を上げたときに初めて、『わたしはある』ということ、また、わたしが、自分勝手には何もせず、ただ、父に教えられたとおりに話していることが分かるだろう。 わたしをお遣わしになった方は、わたしと共にいてくださる。わたしをひとりにしてはおかれない。」ヨハ 8:28-29

📖 「わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう。」ヨハ 12:32

📖 「キリストも、罪のためにただ一度苦しみました。正しい方が、正しくない者たちのために苦しまれたのです。 あなたがたを神のもとへ導くためです。」1ペト 3:18

- イエスが、神から与えられた使命を完全に成し遂げられたのは、多くの苦しみを受けたためではなく、大きな苦しみの中にあっても、神と人を愛し続けたためなのです。
- 十字架に付けられたイエスの内に完全な愛を見出すことができるならば、イエスこそが世の救い主として神に遣わされた方であり、神の愛を完全に現す方、つまり、神の愛の受肉であるということが分かります。
- 十字架上からイエスは、大きな苦しみによってではなく、大きな苦しみをもたらす不正や罪を犯した人々に対しても変わることはない大きな愛によって、人を神のもとへ引き寄せています。
- イエスが十字架に付けられて、殺されたのは、神の望みに逆らう人間の仕業、つまり罪でした。けれども、この悪はイエスの愛を止めることや、神の救いの計画を砕くことができなかつただけではなく、神はそれをご自分の計画を実現するために利用されました。

## 6. イエスが示した神

📖 「イエスは言われた。「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのだ。なぜ、『わたしたちに御父をお示してください』と言うのか。」ヨハ 14:9

📖 「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。」ヨハ 3:16-17

📖 「つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」2コリ 5:19

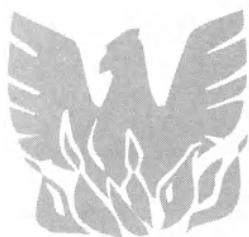
📖 「わたしたちは主キリストに結ばれており、キリストに対する信仰により、確信をもって、大胆に神に近づくことができます。」エフエ 3:12

📖 「このイエスを神は、お定めになった計画により、あらかじめご存じのうえで、あなたがたに引き渡されたのですが、あなたがたは律法を知らない者たちの手を借りて、十字架につけて殺してしまったのです。しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。イエスが死に支配されたままでおられるなどということは、ありえなかったからです。」使 2:23-24

- イエスをご自分の言葉と行いによって、特に十字架にかけられたときに教えてくださったのは、神が人を裁いたり、罪を犯した人に罰を与えたりするのではなく、すべての人を無条件に、限りなく愛してくださり、絶えずすべての人のために善を行っているということなのです。このことから、人間が最大の罪を犯し、神ご自身を傷つけても神の愛は変わらないので、この人がゆるしを求めて神のもとに近づけば、必ず歓迎されるということが分かります。
- イエスの復活は、まずその教えがすべて真実であったということを裏付けるものとなっています。そして、この復活は、愛を求

める神は力強く忠実な方なので、与えてくださった約束を必ず、しかも私たちが期待しているよりも素晴らしい形で実現してくださいということも現わしています。それ故に私たちは、神を絶対的に信頼することができますし、神の望みに答えて自分の人生を愛に賭けることもできるわけです。

- イエスの復活から、愛について非常に大事なことを学ぶことができます。愛には苦しみが伴って、愛する人のために命を失うことがあっても、愛の目的は苦しみや死ではなく、真の命なのです。全能の神ご自身の力によって、愛はあらゆる悪や苦しみ、そして死よりも強いのです。



## 7. 新しい永遠の契約

☞ 「食事を終えてから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。」 ルカ 22:20

☞ 『それらの日の後、わたしが彼らと結ぶ契約はこれである』と、主は言われる。『わたしの律法を彼らの心に置き、彼らの思いにそれを書きつけよう。もはや彼らの罪と不法を思い出しはしない。』 罪と不法の赦しがある以上、罪を贖うための供え物は、もはや必要ではありません。」 ヘブ 10:16-18

☞ 「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。 この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。」 ヨハ 14:15-17

☞ 「しかし、時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました。それは、律法の支配下にある者を贖い出して、わたしたちを神の子となさるためでした。 あなたがたが子であることは、神が、「アッバ、父よ」と叫ぶ御子の霊を、わたしたちの心に送ってくださった事実からわかります。 ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子であれば、神によって立てられた相続人でもあるのです。」 ガラ 4:4-7

☞ 「神は約束されたものを受け継ぐ人々に、御自分の計画が変わらないものであることを、 いっそうはっきり示したいと考え、それを誓いによって保証なされたのです。」 ヘブ 6:17

- 十字架上でイエスは、神に完全な愛を捧げました。また、ご自分の命を狙っていた罪人のところに留まり、受難を受けたイエスを通して、神は人間に完全な愛を与え、この愛は、絶対に変わらないと約束してくださいました。この二つの完全な愛の出会い、相互奉獻によって、神と人類との間に新しい永遠の契約（誓約）

が結ばれました。この契約により、罪によって生じた、神と人との間の淵が埋められ、和解が実現されました。

- 十字架上で結ばれた新しい契約によって、私たちには、神の内なる命に参加することが可能になったのです。この契約にあずかる人に、神はご自分の霊（命）を与え、ご自分の子どもにしてください。それによって、この人は、神の国の市民となり、神の家族の一員となります（エフェ 2,19）。



## 8. キリストの傷による人間のいやし

☞ 「あなたがたが召されたのはこのためです。というのは、キリストもあなたがたのために苦しみを受け、その足跡に続くようにと、模範を残されたからです。「この方は、罪を犯したことがなく、／その口には偽りがなかった。」ののしられてもののしり返さず、苦しめられても人を脅さず、正しくお裁きになる方にお任せになりました。そして、十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きるようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたがたはいやされました。あなたがたは羊のようにさまよっていましたが、今は、魂の牧者であり、監督者である方のところへ戻って来たのです。」 1ペト 2:21-25

- 愛が人間の本質であって、人間には完全に愛する能力があっても、愛の源である神との正しくない関係に生きるとき、その能力を実現することができません。愛する能力を生かせないというのは、人間らしく生きていないことです。それは人間にとって最大の不幸であり、その他すべての不幸の最終的な原因でもあるのです。だからこそ、神との正しくない関係は、人間の最も重い「病気」と言えるわけです。
- イエスは、ご自分の生涯、特に受難と死によって、私たちに神の本当の姿（本質、性格、望み）を現し、神と契約を結び、私たちが神に大胆に近づく可能性を与えてくださいました。私たちは、イエスが現してくださった神の愛を体験して、それを自覚することによって、神を信頼し、心を開いて神の愛を受け入れることができます。愛をもって、神の愛に答えることによって、私たちは神との正しい関係に入り、完全にいやされます。
- このようにいやされた人にとっては、苦しみを避けたり、楽に暮らしたりするよりも、愛に忠実に生きる方が大切なことになり、たとえ愛に苦しみが伴っても、イエスと同じように最後まで愛に留まることができます。このようないやしこそ、私たちが一番必要としている救いなのです。

## 9. イエス・キリストを知ることのすばらしさ

📖 「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。」ヨハ 17:3

📖 「そして、死者の中から復活させられたキリストはもはや死ぬことがない、と知っています。死は、もはやキリストを支配しません。」  
ロマ 6:9

📖 「イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることはない方です。」ヘブ 13:8

📖 「イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。」ヨハ 14:6

📖 「そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくたと見なしています。キリストを得、キリストの内にいる者と認められるためです。」フィリ 3:8-9

📖 「わたしが、あなたがたとラオデキヤにいる人たちのため、また、直接にはまだ会ったことのない人々のために、どんなに苦闘しているか、わかってもらいたい。それは彼らが、心を励まされ、愛によって結び合わされ、豊かな理解力を十分に与えられ、神の奥義なるキリストを知るに至るためである。」コロ 2:1-2

- 聖書において、誰かを知るとは、その人についての知識をもつ以上のことで、その人と個人的な関係にはいることなのです。
- 復活して、今も生きておられるイエスは、現在も、2000年前と同じように神の愛を現し、私たちを神のもとへ導くのです。
- イエスを知ること、すなわち、イエスを受け入れ、イエスと友情の関係にはいり、親しい交わりの内に生きることは、神ご自身を受け入れること、神の愛に生きることなのです。その意味で、

イエスを知ることは、何よりもすばらしいことですし、全力を尽くしてイエスを知るように努めること、さらに人々にイエスを知らせることは、何よりも重要なことなのです。

「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。  
だれかわたしの声聞いて戸を開ける者があれば、  
わたしは中に入ってその者と共に食事をし、  
彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。  
勝利を得る者を、わたしは自分の座に共に座らせよう。  
わたしが勝利を得て、  
わたしの父と共にその玉座に着いたのと同じように。」

(黙 3:20-21)



## 復習

---

- 1) イエスの使命の目的は何だったでしょうか。
- 2) 神は人間から、御独り子に対してどんな態度を求めたでしょうか。
- 3) a. イエスは、死刑に当たるような悪を行いましたか。  
b. イエスが下された死刑の判決は、正義でしたか。  
c. この裁判と判決は、神の望みに適うもので、神の計画だったでしょうか。
- 4) a. 十字架に付けられたイエスは、何をなさったでしょうか。
  - ◆ 母マリアに対して
  - ◆ 兵士に対して
  - ◆ 回心した犯罪人に対して
  - ◆ 神に対してb. 大きな苦しみの中にあっても、なぜイエスは、他人のことを考え、彼らに対して善を行うことができたと思いますか。  
c. 神に見捨てられたように感じて、なぜイエスは、神を信頼し、神に全てを委ねることができたのでしょうか。
- 5) a. イエスは、十字架にどんな力があると信じたでしょうか。  
b. ペトロは、イエスの苦しみにおいて、どんな可能性を見出したでしょうか。
- 6) ご自分の言葉と行い、特に受難と死によってイエスは、神についてどんな真理を現していますか。
- 7) a. 最後の晩餐の時イエスは、自分の受難と死の結果について語っていますが、それによると、イエスの死によって、人間と神の間は、何が結ばれましたか。  
b. 新しい契約において、神は私たちに何を約束してくださいましたか。
- 8) a. 私たちが、イエスの傷によっていやされたというのは、どういう意味ですか。  
b. 十字架上のイエスは、あなたに何を呼びかけていると思いますか。  
c. この呼びかけにはどのように答えたいですか。
- 9) イエスを知ることは、なぜ重要なのでしょうか。

十字架上からイエスは、  
大きな苦しみによってではなく、  
大きな苦しみをもたらす  
不正や罪を犯した人々に対しても  
変わる事のない大きな愛によって、  
人を神のもとへ引き寄せています。

**カトリック南山教会**

〒466-0835 名古屋市昭和区南山町1

Tel: 052-831-9131

---

[www.nanzankyokai.net](http://www.nanzankyokai.net)